一過性脳虚血発作について

　みなさまは一過性脳虚血発作という病名をご存知でしょうか。
これは脳の一部の動脈の血流が一過性に悪くなることによって、言語障害や半身の運動麻痺や感覚障害などの脳の局所の神経症状を一時的に生じるものの、血流が改善し脳梗塞に至らず、後遺症を残さず症状が回復するものを言います。通常は数分以内に症状がピークに達し、2-15 分以内に症状が軽快することが多いと言われています。この一過性脳虚血発作の重要なところは脳梗塞の前兆であることです。発作後、48 時間から 2 週間以内に脳梗塞を生じることが多く、後遺症を残すことにつながります。特に発作を繰り返す場合や、発作の持続時間がしだいに長くなる場合は脳梗塞に移行する可能性が高く、より注意が必要です。そのため、このような症状を訴え、患者様が外来を受診し、一過性脳虚血発作が疑われた場合は、速やかに CT や MRI 検査、血液検査、心電図検査等を行い、基本的に入院として、脳梗塞に準じた点滴や内服による治療を開始します。また高血圧や高脂血症、糖尿病等の治療や禁煙も必要となります。
また、一過性脳虚血発作と似たような病態として、一過性黒内障というものがあります。これは眼球に行く眼動脈の血流が一時的に悪くなり、突然片側の眼が見えなくなり、短時間で元に戻る発作です。眼動脈は脳に血流を送る頸動脈から分岐しており、この発作が脳梗塞の前兆となることがあります。このような患者様を調べると頸動脈に強い狭窄が見つかり、脳梗塞予防のため内服治療のみならず、細くなった頸動脈を広げる手術（頸動脈内膜剥離術あるいは頸動脈ステント留置術）が必要になることもあります。
ですから、一過性に半身の手足の動きや感覚が鈍くなった、片側の顔がゆがんだり言語障害が出現した、片目が見えなくなった等の症状が出現し、その後症状が改善したとしても、そこで安心してはいけません。すぐに医療機関を受診してください。それは脳梗塞の前兆です。

【副院長兼脳神経外科診療部長　曲澤　聡】

一過性脳虚血発作について２

頚部頸動脈狭窄症（ステント留置術前後）